

2019年9月30日

あおぞら投信株式会社

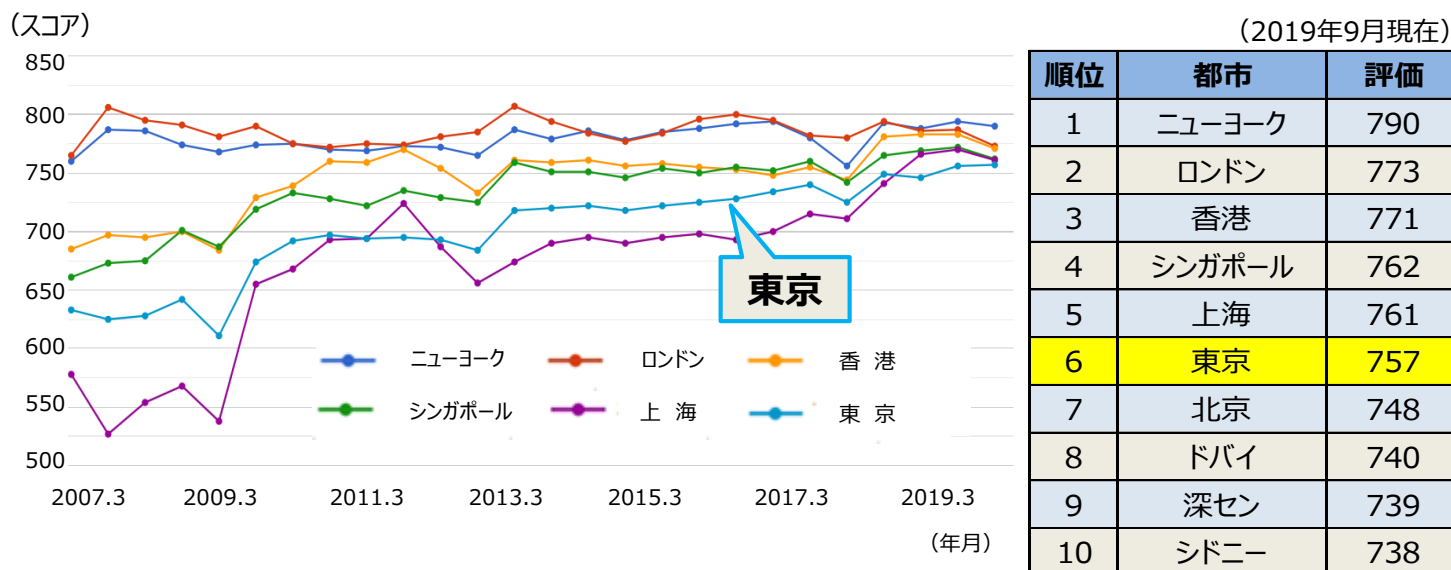
「参加者の 求める気持ち 受け止めて 三方良しの 市場育てて」

株式市場について語るとき、まず感じるのは人により時間軸の違いが大きいということです。特に“株”については、まず出てくる言葉が「今日は上がった」もしくは「今日は下がった」ということがほとんどです。目の前の現実を知る意味では間違っていないかもしれませんが、その日ばかりの考え方の習慣化が、もしかすると現在の日本の資本市場の状況を作っているのではないのでしょうか。すなわち、その日ばかりではない時間軸が必要だと思ふのです。

例えば、広い意味での資本市場育成として、1983年10月の総合経済対策で「円の国際化及び金融・資本市場の自由化」を盛り込み、同年11月に発足した日米円ドル委員会で議論を開始、1984年5月の報告書で具体的な方向が示されるなど、「円の国際化」は採り上げられました。この時、短期金融市場の整備や金利自由化など国内金融市場の規制改革を進めるとしましたが、外貨準備などでの円の活用は限定的なままに推移しました。短期の金融市場取引から、社債市場の充実、株式市場の効率化といった、発行体、投資家、流通供給者の3主体それぞれがメリットを受けられるような、税制を含めた『資本市場育成の心』が欠けていたのではないのでしょうか。高度成長により経済力が上がったところで、次のステージへと進み切れなかった姿が現在も残っているのかもしれない。ただし、直近の数年でコーポレートガバナンスコード(企業統治)の徹底など、今一度日本企業についての見直しが進むことで、資本市場での存在価値を問われる姿が増えてきていることも事実です。国際金融都市・東京構想など、今後のアジアの成長とともに、日本にとって重要な場面でこそ『資本市場育成の心』がカギを握ると考えるのです。

柳谷俊郎

東京の金融都市としての評価* (2007.3~2019.9)



* イギリスのシンクタンクであるZ/Yenグループが取りまとめている国際金融都市としての世界的な地位を示す代表的な指標:国際金融センターインデックス (英語名称: Global Financial Centres Index (GFCI))

出所: Z/Yenグループのデータを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>